

平成26年度第1回日本生理学会教育委員会議事録

日 時 平成26年3月15日 10時00分～12時00分

日時：3月15日（土） 10:00-12:00

会 場 鹿児島県鹿児島市、サンプラザ天文館内 会議室 3F D-3

出席者 奥村 敏（鶴見大）、奥村 哲（静岡理工科大）、久野 みゆき（大阪市大）、
鯉淵 典之（群馬大）、椎橋 実智男（埼玉医大）、鈴木 敦子（健康科学大）、
中島 昭（藤田保健衛生大）、皆川 雅子（事務局）、山下 俊一（女子栄養大）、
山中 章弘（生理研）

欠席者 石松 秀（西九州大）、河合 康明（鳥取大）、深田 優子（生理研）、松田 哲也（玉
川大）、森田 啓之（岐阜大） （以上、五十音順）

議 長 鯉淵 典之 委員長

書 記 奥村 哲、山下 俊一

オブザーバー 渋谷まさと （女子栄養短大）

【報告事項】

1. 委員の交替について（鯉淵委員長）

小泉周委員の所属先の変更（生理研>総研大）にともない、小泉委員に代わって深田優子先生（生理研）に委員になっていただくことが承認された。また、今後FAOPSなどとの関わりから、国際連携強化のため渋谷まさと先生（女子栄養短大）に教育委員に加わっていただく方針が確認された。

2. 前回議事録承認（鯉淵委員長、資料1）

平成25年11月23日開催の平成25年第3回教育委員会議事録が訂正なく承認された。

3. 平成25年度日本生理学会第3回理事会について（鯉淵委員長、資料2）

資料2により鯉淵委員長より理事会への報告および提案内容が以下のとおり示された。

- ・教育委員会委員の変更（小泉先生に代わって深田先生に入って頂くこと）。
- ・鹿児島大会における教育プログラムの実施内容についても予定どおり行うこと。

4. 理事長・副理事長会議について（鯉淵委員長）

鹿児島大会以降も教育プログラムの謝金と旅費を非会委員の先生には供出することが認められた。

生理学エデュケーター認定制度に関して中島先生が提案した予算案は承認された。

また、生理学エデュケーターの認定申請を受け付けることが報告された。

これまで、教育委員会で管理してきた通帳残金は学会会計に全額返却された。

今後は、クリアファイルの印税は生理学会に入ることになった。

5. 日本生理学会雑誌「Education」について（久野委員、資料あり）

教育のページの9月号までの内容・執筆者は概ね決まっていることが報告された。引き続き、次の委員会において、教育委員会から推薦をうけることが確認された。教育理論については椎橋委員に、心理系および家政系については鈴木委員に推薦を依頼することとなった。

研究指向学生コンソーシアムの事例について東大の岡部先生（解剖）に鯉淵委員長より執筆を依頼することとなった。

6. 認定エデュケーター委員会について（中島生理学エデュケーター認定委員会委員長）
今年の7月からの認定申請受付開始に向けた準備について、資料に基づいて中島生理学エデュケーター認定委員会委員長より説明された。

具体的には、HPにおいてポイント確認画面が見えるようになっている状況を各委員に逐次、確認していただくことになった。

5月までに各種書類をダウンロードできるHPを準備する。等の方針が説明された。

また、書類（「生理学エデュケーター」認定試験受験及び認定申請書（様式1）、「生理学エデュケーター」認定申請書（様式2）、「生理学エデュケーター」推薦書（様式3）、出願料払込書（様式4）、生理学会大会又は地方会での発表業績（様式5））の内容について確認を行った。以上を同日午後の理事会で承認して頂く方針を確認した。

【討議事項】

1. 教育プログラムにおける役割分担について（椎橋委員、資料3）
鹿児島大会当日の教育プログラムの進行、出席確認方法、係分担について、椎橋委員より資料に基づいて、詳しい説明が行われ確認された。
2. 神戸大会での教育プログラムについて（鯉淵委員長）
平成26年度神戸大会（解剖学会と合同開催）の教育プログラムについて鯉淵委員長より以下の提案があり、全て討議の上、可決された
 1. 神戸大会まではこれまでと同じ方式で教育プログラムを開催すること。
 2. ただし、神戸大会においては解剖学会と合同の教育プログラムとし、モデル講義も両学会からほぼ均等に出すことにすること。
 3. モデル講義 1セッション約2時間で各模擬講義は30分ずつとし、1セッション参加で合計4ポイントを出席者に加算すること。
 4. 演者については、解剖生理的視点から適切な先生を今後検討していくことになった。
 5. 教育技法についての講演も欠かせないと考えられる。神戸大会では愛媛大学の小林先生（解剖）に依頼する方針が説明された。
3. 教育プログラムの今後について（鯉淵委員長 将来計画委員会からの要望事項）
神戸大会以降の、教育プログラムのあり方について、将来計画委員会からの要望が伝達された。若手会員や学生にとってより意義深いプログラムの組み方や、MD-Ph.Dコースの充

実や普及に資するようなプログラムのあり方について、今後、教育委員会としても取り組んでいくことになった。また、今後 FAOPS を睨んで教育関連のセッションを強化する必要があり、教育関連プログラムの国際化（英語化）についても検討を行うことになった。一部をグループディナーのようなソーシャルプログラムとすることや教育サテライトWSの開催も一案である。サテライト会場については、FAOPSの会場が神戸の場合はIUPSのサテライトWSで利用したニチイ学館、名古屋が会場になった場合も同様の施設を検討する。

4. 生理学会HPにおける教育関連ページについて（山下委員、資料4）

山下委員より、現在準備中の新しい生理学会HPにおける教育関連ページのあり方について、現時点の案が示され、討議が行われた。現時点では以下の方針を進めることが教育委員会の方針として確認された。

【会員向けのページにおける教育関連情報】

- ① 生理学教育・エデュケーター認定関連のページからマイページに直接リンクをはる。マイページは会員専用でIDとパスワードは学会事務局が発行する。
- ② モデル講義はPW（事務局に会員に告知を依頼する）をかけ、それを保存、公開するサーバーはUMINにおくか、事務局に依頼するかを討議した。結果、一般向けコンテンツとはならないが、コスト面や運用面から、サーバーはこれまで同様にUMINサーバーに置き会員向けに運用を続けることが確認された。
- ③ 会員向けのアウトリーチ関連情報をまとめたページを整備することとなった。アウトリーチ・タスクフォース委員会のとりまとめを鈴木委員に依頼し、ページ自体の構築は、更新の便を考慮してWordPressの様なシステムで行うこととした。これについて、どこまでの情報と分類し、公開するのかをタスクフォースがとりまとめて編集・広報委員会の山下委員に伝達することになった。
- ④ コアキャリ項目の一覧表も会員用ページに載せることとした。
- ⑤ その他教育関連コンテンツについては椎橋委員に項目のとりまとめを依頼することになった。この中に「一步一步生命科学」の内容をおき、これについては一般向けページからでも会員向けページからでも、どちらからでも辿れるようにリンクを作成することになった。
- ⑥ その他、教育委員会活動紹介、研究指向大学生の教育に関する大学間連携コンソーシアム、各大学の教育コンテンツへのリンク についても鯉淵委員長を中心に内容を検討していくこととなった。

【一般向けのページ（「生理学を知る」からのリンク）における教育関連情報】

- ① 「生理学を知る」（一般向けコンテンツ）の中身の検討は将来計画委員会に進めていただく。原則、中学高校の先生、熱心な高校生などを主な読者として想定する。
- ② 学会でとりまとめたアウトリーチ関連情報や、各大学のアウトリーチ活動の紹介を行う。（例えば生理研（深田先生）の活動や、脳プロ、脳の世紀、理研の高校生向けコンテンツなどを紹介）

③ Q&A コーナーを整備する。

質問例：アウトリーチの依頼の方法は？、学会への入会方法は？ などが内容。

質問は専用メールアドレスにメールで事務局に送ってもらい、それを教育委員会 ML に転送して必要に応じて、委員長から回答者を指名する。それをある程度まとめて FAQ を作成する。

④ 日誌エデュケーションのページへの一般用ページからのリンクについても検討を進める。

5. 生物科学学会連合教科書問題検討委員会からの宿題（渋谷オブザーバー（次期委員））生科連がとりまとめている今後の高等学校生物学教科書の内容の基礎となる「生物学教育用語集」が今後1年半程度で改訂されることになった。これに関連して、医学、生理学用語を中心に現在使用されている高校生物学教科書における用語の使用法について再検討することが依頼されている。これについて、渋谷オブザーバーより資料に基づいて説明があり、教科書の章を各委員に割り振った上で、4月10日までに検討結果を渋谷先生に送って4月13日に東京で会議を行い、生理学会教育委員会として見解をとりまとめることになった。

6. 次期教育委員会委員と今後の活動について

- ・これまで、教育委員を務めてこられた、森田委員、山中委員、河合委員、山下委員に代わって、次期委員として渋谷まさと先生（女子栄養短大）、南沢先生（慈恵）に委員に加わっていただく方針が、鯉淵委員長から示され、討議の結果承認された。（深田委員（生理研）の就任については前回委員会で承認されている。）
- ・今後、アウトリーチ活動の拡大やFAOPS（2019年開催）への対応等を考えて、今後教育委員の増員を考慮する。具体的には委員の多様性をさらに増す方向性や地域バランス（北海道・東北地区の委員が現状では不在）を考慮して、さらに数名の先生に委員就任を依頼していく方針が確認された。
- ・また「一步一步」の監修を行う必要があることが確認された。教育委員会が関わる出版物の印税管理については、学会本体会計に一元化していくことが確認された。

なお、教育委員会以降に行われた認定委員会メール会議において、教育委員会への評議員紹介の手順に関する以下の流れが決定され、審議依頼があった（今回承認事項）。

会員（問い合わせ） → 事務局（履歴書の送付依頼） → 会員（履歴書、PDF化してメールが便利か？） → 事務局（履歴書） → 中島（履歴書から判断、教育委員会へ依頼） → 教育委員会（回覧、OKの判断） → 事務局 → 会員（推薦書） → 教育委員長（サイン） → 会員